

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

事業実施団体

原地区自主防災会

事業名	1	地域防災力向上事業		
事業期間	令和3年4月～令和4年3月			
決算額	228,168 円		助成金充当額	50,000 円
事業対象者	原地区民		参加人数	主要行事参加者 1000人
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) 9月 防災訓練(本年度はM6クラスの地震、震度6弱祖想定した訓練実施)参加者:800人 10月 支援物資配送訓練(山口県、宇部市主催の訓練に参加)参加者:30人 10月 防災研修会(原小児童も参加、備蓄品の確認、段ボールベッドの組み立て)参加者:140人 3月 原地区自主防災会研修会(保有の防災資機材の確認、防災倉庫の整理整頓)参加者:30人 その他、防災アドバイザー、防災士の資格取得推進、緊急連絡網の整備(専用パソコン導入)			
事業目標	防災研修会や平日実施の防災訓練等により、被災者"0"を目標に地区民の防災意識の向上を図る。			
	数値目標		令和3年目標	令和3年実績
	防災訓練参加者		500人	主要行事参加者 1000人
	(達成できた、又は、できなかった要因) 災害は何時起こるか分からないため、地震時、近場の広場に避難するなどコロナ禍でも出来る防災訓練を実施した。また、山口県主催の防災リーダー養成講座を受講し2名の防災士増員。 (現在防災士11名⇒13名) 緊急連絡網整備のため専用パソコンを導入し、スマホなどSNSによる同時配信／連絡網が出来た。高齢者向けの初級・LINEなどスマホ教室も実施。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 本年度の防災訓練・研修会などの反省会では、地域民の防災意識の向上が図られたとの意見が多くあった。 特に小学生の防災研修会参加により、子供たちの防災意識向上が図られ、児童が作成した非常時の備蓄品のチェックリストを地区内全戸に配布した。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 今年度実施の諸行事により、地区民の防災意識が向上したとはいえ、7300人もの地区民全員がレベルアップしないと、災害時の被災者"0"にはならない。今後も防災意識向上のための諸施策を実施するとともに、避難訓練等のレベルアップを図る。			
自己評価 (3段階評価) 1:不十分 2:効果的 3:非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	2 ③
	助成金を有効に活用できましたか		1	2 ③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	② 3
	今後も事業継続できますか		1	2 ③

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

事業実施団体

原地区体育振興会

事業名	2	健康づくり事業			
事業期間	令和3年4月～令和4年3月				
決算額	321,326 円		助成金充当額	78,000 円	
事業対象者	原地区民		参加人数	延約300人	
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) ・スポーツ事業開催(球技大会、ソフトバレーボール大会、バドミントン大会等) ・常任委員研修会 ・指導者研修会				
事業目標	スポーツ振興				
	数値目標		令和3年目標	令和3年実績	
	スポーツ事業参加者数		200人	90人	
	(達成できた、又は、できなかった要因) コロナや天候不良により、中止になった事業があり、当初の目標を達成することができなかった。				
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) スポーツ事業の実施により、地域住民との親睦・健康づくりに貢献することができた。				
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) スポーツ事業の中には、開催しても参加チームが少ない競技、参加者がいない競技がある。 より多くの地区住民に参加してもらうため、競技やチーム編成の見直しを行っていく。				
自己評価 (3段階評価) 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	②	3
	助成金を有効に活用できましたか		1	②	3
	多くの住民の参加が得られましたか		1	②	3
	今後も事業継続できますか		1	②	3

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

事業実施団体 原小学校運営協議会
黒石中学校運営協議会

事業名	3	コミュニティスクール推進事業			
事業期間	令和3年4月～令和4年3月				
決算額	125,000 円		助成金充当額	75,000 円	
事業対象者	原小学校児童、黒石中学校生徒、保護者、地域住民、教職員		参加人数	延べ約7200人	
事業内容	<原小学校> ・地域貢献活動：どんど焼き・三世代ふれあいグラウンド・ゴルフ大会への参加・地域巡り（3年生史跡巡り） ・防災対策：防災教室（避難所の運営について） ・幼保小中一貫教育の推進：黒石中校区合同学校運営協議会の実施、合同あいさつ運動 <黒石中学校> 学校運営協議会を開催し、中学校ができる地域貢献と、地域住民による学校支援について協議するとともに、地域コーディネーターが核となって、多くの地域のボランティアに来校していただき、授業支援、環境整備など、多くの支援活動をしていただいた。また、中学生も11月に中川・地域清掃に参加し、地域貢献を行った。地域と学校が一体となった協働活動を進めることができた。				
事業目標	・多くの地域ボランティアに来校していただき、授業支援や環境整備活動等に協力していただく。 ・学校評価アンケート「地域のためになる活動を進んで行く」肯定意見70%以上目標（前期59%、後期63%）				
	数値目標		令和3年目標	令和3年実績	
	学校支援ボランティア人数		100人	延べ約550人	
	（達成できた、又は、できなかった要因） ・黒石中学校では、多くの地域ボランティアが来校し、本校教育活動に授業支援や環境整備活動、3年生の入試に向けた面接指導など、充実した活動になった。 ・コロナ禍の中で、児童や地域住民の方々の安心、安全を確保するために、予定されていた様々なイベントや催しが延期や中止になってしまった。				
事業効果	・児童が学校運営協議会に参加し、委員会活動での取り組みを委員の方に紹介。今後の取り組みについて協議を行った。委員の方からご意見をいただいたことで、今後の活動にむけての方向性をイメージすることができたとともに、委員の方との協働活動のきっかけを作ることができた。（原小6年生） ・原郷土史研究会の皆さんが指導者となり、親子で地域の史跡巡りを行った。普段、見慣れた景色がとても新鮮に見えたようです。（原小3年生） ・中学生が地域の人とふれあう良い機会となり、生徒の地域に対する意識が高まった。 ・学校現場での働き方改革に繋がる活動となった。				
今後の課題等	・これまで小中共通の取り組みとして、あいさつ運動や学習規律の定着（黙想等）、柔軟性を高める運動等を進めてきた。今後は、9年間を見通した目指す子ども像をもう一度共有し、系統性・連続性のある学習指導・生徒指導の実施ができるよう見直していきたい。 ・来年度以降も、是非地域と学校が連携協働する活動を進めていきたい。				
自己評価	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	2	③
（3段階評価）	助成金を有効に活用できましたか		1	2	③
1：不十分	多くの住民の参加が得られましたか		1	2	③
2：効果的	今後も事業継続できますか		1	2	③
3：非常に効果的					

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

事業実施団体

原地区社会福祉協議会

事業名	4	自治会福祉事業			
事業期間	令和3年4月～令和4年3月				
決算額	2,241,044 円		助成金充当額	839,200 円	
事業対象者	原地区民		参加人数	延2,100人	
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) ・ふれあい・いきいきサロン活動(延26人) ・敬老事業支援(記念品配布:1,282人) ・福祉委員研修会(延38人)、福祉委員民生委員合同研修会(41人) ・長寿者祝賀事業(ふれあい昼食会の代わりに弁当配布:295人) ・高齢者ふれあい訪問活動推進(延457人) ・諸団体の福祉活動支援 ・「福祉だより」発行(年4回)				
事業目標	各自治会で高齢者の長寿を祝い、末永い健康を祈ることを目的とした敬老事業の実施				
	数値目標		令和3年目標	令和3年実績	
	敬老事業参加人数		1,000人	1282人	
	(達成できた、又は、できなかった要因) コロナ禍で敬老会が開催できないため、敬老祝いの訪問と記念品配布を実施した。				
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 子どもから高齢者まで、地域での助け合いや支え合いなど、地域福祉活動の推進				
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 今後も進むと予想される少子高齢化に備え、ご近所同士で出来る関係づくり等高齢者福祉の充実				
自己評価 (3段階評価) 1:不十分 2:効果的 3:非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	②	3
	助成金を有効に活用できましたか		1	②	3
	多くの住民の参加が得られましたか		1	②	3
	今後も事業継続できますか		1	②	3

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書（事業別）
（地域活動支援事業及び地域計画推進事業）

事業実施団体 根っこの会、子ども委員会、ふれあい運動、まちづくりサークル、蓮鼓太鼓

事業名	5	原っ子健全育成事業		
事業期間	令和3年4月～令和4年3月			
決算額	384,449 円		助成金充当額	334,400 円
事業対象者	原小学校児童、黒石中学校生徒、地域住民		参加人数	延193人
事業内容	（どのような事業を、どのように行ったか） ・子ども太鼓、蓮鼓太鼓の後継者育成（月2回の練習）、放課後子ども教室、ピザ作り、ヨット体験（工場群を海から見学） ・通学路安全確保、見守り声かけ、標語ポスター等での啓発活動、子ども110番の家、ふれあい運動推進員情報共有研修会（月1回） ・お節料理講習会（12人）、ふれあい健康ハイキング（22人）、駅の花壇・環境整備（春・秋実施）			
事業目標	学習や体験活動を通して子ども達の健全育成の手伝いをする。 合同街頭補導実施。			
	数値目標	令和3年目標	令和3年実績	
	事業参加人数	延330人	延193人	
	（達成できた、又は、できなかった要因） ・新型コロナのため、予定事業の半分为中止となった。（子ども委員会） ・コロナ禍のため、合同補導活動は中止としたが、各自で見守り活動をすることにした。（ふれあい運動）			
事業効果	（事業の実施により、どのような効果が得られたか） ・放課後教室やピザ作りで自主性が育めた。（子ども委員会） ・子ども達の健全育成の一助、地域住民への周知。（ふれあい運動） ・地域住民同士が集い活動することで地域の連帯感を強める（まちづくり）			
今後の課題等	（事業の必要性、継続していくための課題や改善点など） ・現状に対応した活動（特にネットでの影響）、委員の委嘱。（ふれあい運動） ・地域の活動が中止となり、太鼓の発表の場が無く参加者が減少している。（蓮鼓太鼓）			
自己評価 （3段階評価） 1：不十分 2：効果的 3：非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	② 3
	助成金を有効に活用できましたか		1	2 ③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	② 3
	今後も事業継続できますか		1	② 3

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

事業実施団体

原地区交通安全対策協議会

事業名	7	交通安全推進事業			
事業期間	令和3年4月～令和4年3月				
決算額	98,620 円		助成金充当額	30,000 円	
事業対象者	交安協原分会、地区推進員		参加人数	約400人	
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) ・交通安全看板の設置 ・子ども達の事故防止 ・通学路の安全確保 ・歩行者、自転車、自動車の安全確認 ・登下校時の見守り活動				
事業目標	交通事故の無いまちづくり				
	数値目標		令和3年目標	令和3年実績	
	交通事故ゼロ		0 件	0 件	
	(達成できた、又は、できなかった要因)				
事業効果	市や道路課等に相談しながら少しずつ改善できた。				
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) ・通学路の標示等、地域全体の安全意識を高め、協力を得ていきたい。 ・通学路のグリーンベルトの設置。				
自己評価 (3段階評価) 1:不十分 2:効果的 3:非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	②	3
	助成金を有効に活用できましたか		1	2	③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	②	3
	今後も事業継続できますか		1	②	3

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

事業実施団体

環境衛生連合会原支部

事業名	8	環境美化事業		
事業期間	令和3年4月～令和4年3月			
決算額	518,875 円		助成金充当額	90,000 円
事業対象者	原地区民		参加人数	延2200人
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) ・緑のカーテンづくり、駐車場草刈り ・梅田川清掃作業(131人)、中川清掃作業(175人) ・春期美化活動、第一回全市一斉空き缶等回収(延816人) ・秋期美化活動、第二回全市一斉空き缶等回収(延982人) ・原小学校児童から「ポイ捨て禁止に関するポスター及び標語」募集(28人)看板に加工し設置 ・市外研修:(株)シーパーツ山口工場～自動車リサイクルについて～(14人) ・原支部地区内美化パトロール(年2回) ・ごみの分別指導・啓発活動			
事業目標	地区で美化活動を実施し、ゴミのポイ捨てや不法投棄の減少を目指す			
	数値目標		令和3年目標	令和3年実績
	梅田川清掃参加者		100人	131人
	(達成できた、又は、できなかった要因) 身近な川をきれいにし、住みよいまちづくりを推進する地域住民の環境美化意識向上			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 環境美化活動を行うことで、生活環境をより良いものとする			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) ゴミのポイ捨て、不法投棄が後を絶たないため、地区全体で引き続き美化活動を実施			
自己評価 (3段階評価) 1:不十分 2:効果的 3:非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	② 3
	助成金を有効に活用できましたか		1	2 ③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	2 ③
	今後も事業継続できますか		1	2 ③

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

事業実施団体

原郷土史研究会

事業名	9	地域資源活用事業		
事業期間	令和3年4月～令和4年3月			
決算額	57,291 円		助成金充当額	20,000 円
事業対象者	原地区民		参加人数	延250人
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) ・原小学校児童・保護者への郷土史講座および史跡散策ウォーキング実施(90名参加) ・「厚南の動脈・静脈河川」冊子原稿作成・編集・発行活動 ・原地区老人連合会主催の高齢者学級にて、郷土の歴史講話実施(40名参加)			
事業目標	原・厚南地区の歴史を深く知り、史跡を守るなど継承する滑動活動推進			
	数値目標		令和3年目標	令和3年実績
	郷土史研究会活動		20回	17回
	(達成できた、又は、できなかった要因) 新型コロナ禍であり、施設の閉館などあったが、研究会はほぼ達成できた。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 本年度も原小学校児童(保護者も参加)を対象に歴史講座、史跡巡りを実施し郷土史の知識を深めた。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 史跡看板設置(8か所)を計画していたが、検討不足のため実施できなかった。来年度実施する。			
自己評価 (3段階評価) 1:不十分 2:効果的 3:非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	② 3
	助成金を有効に活用できましたか		1	2 ③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	② 3
	今後も事業継続できますか		1	2 ③

(添付書類用)

令和3年度 地域創生事業助成金 実績報告書(事業別)
(地域活動支援事業及び地域計画推進事業)

事業実施団体

原地区コミュニティ推進協議会

事業名	10	コミュニティ行事運営事業		
事業期間	令和3年4月～令和4年3月			
決算額	83,350 円		助成金充当額	37,400 円
事業対象者	原地区民		参加人数	(主要行事のみ) 630人
事業内容	(どのような事業を、どのように行ったか) 令和3年10月 三世代グランドゴルフ大会(原小学校グランド) 13チーム、参加者: 100人 令和3年11月 原ふれあいまつり(クラブ作品、小学校児童作品の展示会実施) 参加者: 延200人 令和3年11月 ふれあい健康ハイキング(小野田/竜王山方面) 参加者: 30人 令和4年1月 原地区どんど焼き、凧あげ大会(原小学校グランド) 参加者: 300人 ※コミュニティ大運動会、夏まつりは中止			
事業目標	多世代が参加できる行事・活動を通じて、若い世代にも地域の魅力を知ってもらい、魅力ある地域づくりを目指す			
	数値目標		令和3年目標	令和3年実績
	行事参加者数(原ふれあい祭り)		500人	諸行事参加者: 630人
	(達成できた、又は、できなかった要因) 本年度前半はコロナ感染拡大防止のため、行事の自粛・ふれあいセンター閉館などが続き、予定の行事ができなかった。年度後半になって、規制が緩和されたので、予定通りの行事が実施できた。 特に三世代グランドゴルフやどんど焼き・凧揚げ大会などは若い世代の参加者が増加した。			
事業効果	(事業の実施により、どのような効果が得られたか) 今年度は厳しい環境のなか、原地区コミュニティ推進協議会主催の行事のみならず、共催行事やコミュニティ推進協議会の部会活動(6部会)など縮小行事もあったが”やる方法を考える”をキャッチフレーズに地区の皆さんの努力により、行事が開催できた。 また、どんど焼き・凧あげ大会では久々に”ぜんざいの接待”を実施したところ、用意した約300食が全てなくなる程多くの方が来場し、コミュニケーションが深まったと感じた。			
今後の課題等	(事業の必要性、継続していくための課題や改善点など) 今後もコロナ禍の環境は続くと思われるが、本年度同様”やれない理由を考えるより、やる方法を考える!”をキャッチフレーズに、出来るだけ多くの行事が実施できるよう皆で努力したい。			
自己評価 (3段階評価) 1: 不十分 2: 効果的 3: 非常に効果的	地域貢献(課題解決・魅力創出)につながる活動になりましたか		1	② 3
	助成金を有効に活用できましたか		1	2 ③
	多くの住民の参加が得られましたか		1	2 ③
	今後も事業継続できますか		1	② 3